

平成 29 年春期 情報処理安全確保支援士試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2017,6,21

4 月 16 日 (日) に行われた平成 29 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、情報処理安全確保支援士試験 (旧: 情報セキュリティスペシャリスト試験) の合格発表コメントをお知らせします。

■情報処理安全確保支援士試験 (SC)

[平成 29 年春期の情報処理安全確保支援士試験 統計情報]

応募者	25,130 人
受験者	17,266 人
合格者	2,822 人
合格率	16.3%

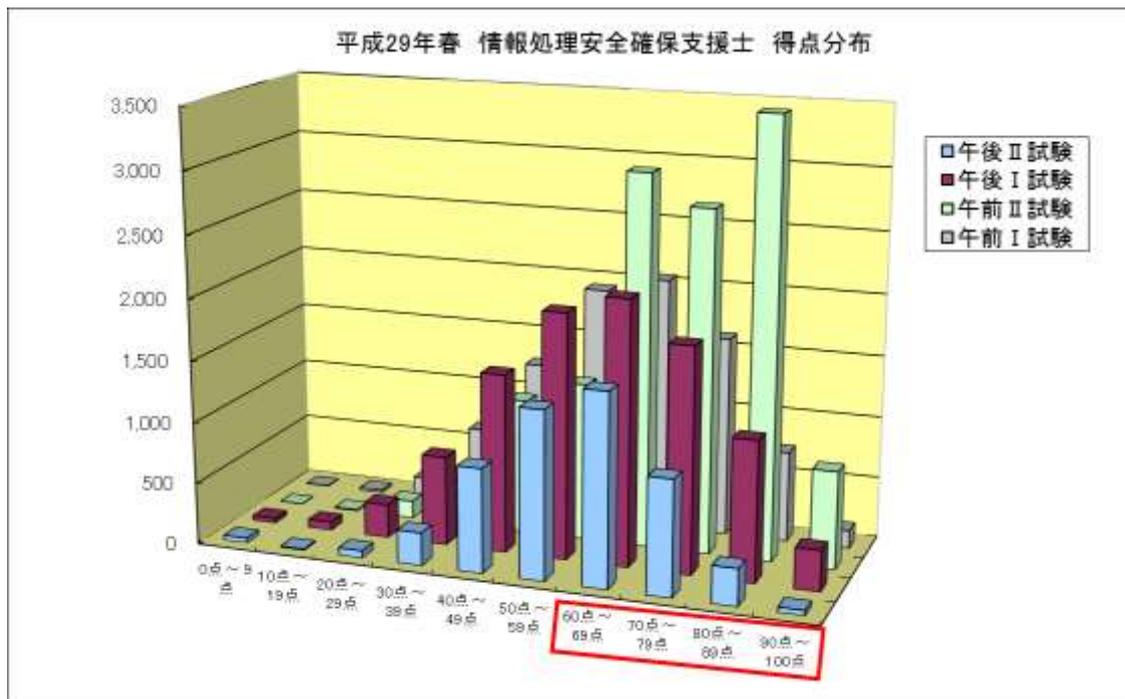
平成 29 年春期から始まった情報処理安全確保支援士試験は、内容的にこれまでの情報セキュリティスペシャリスト試験と変わらないものとして実施されました。名称変更になった初めての試験の合格率は 16.3% でした。前回の 13.5% と比べて 3% ほど増加しましたが、前回の結果がやや低く、今回はそれ以前の平均的な合格率といえます。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[平成 29 年春期 情報処理安全確保支援士試験 スコア分布]

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後 I 試験	午後 II 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	4	2	38	39	
10 点 ~ 19 点	21	9	67	10	
20 点 ~ 29 点	175	142	272	58	
30 点 ~ 39 点	653	344	725	267	
40 点 ~ 49 点	1,257	1,097	1,444	843	
50 点 ~ 59 点	1,926	1,280	1,980	1,358	
60 点 ~ 69 点	2,051	2,998	2,131	1,550	
70 点 ~ 79 点	1,615	2,755	1,814	931	
80 点 ~ 89 点	735	3,539	1,132	300	
90 点 ~ 100 点	147	789	330	41	
計	8,584	12,955	9,933	5,397	2,822
対前試験比率		150.9%	76.7%	54.3%	52.3%
午前 I 免除者 (概数)	8,682	50.3%			

合格者数	2,822	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	4,548	53.0%	1,726
午前 II 60 点以上合計	10,081	77.8%	7,259
午後 I 60 点以上合計	5,407	54.4%	2,585
午後 II 60 点以上合計	2,822	52.3%	0



午前I試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前I試験の免除者は概算で8,682人(50.3%)おり、受験者の半数の人が午前IIからの受験となっています。この午前I試験で基準点60点以上取ることができた人は4,548人(受験者の53.0%)でした。比率では前回の46.3%よりも上がっており、今回出題された問題は前回より解答しやすかったことを示しているといえます。

午前II試験で基準点以上の方は10,081人(受験者の77.8%)で、前回の76.6%と比べて少しだけ上がっています。今回は、前回と同様に過去問題も多く解答しやすかったことを示しているといえます。

午後Iで基準点(60点)以上取れた人は採点者の54.4%で、前回試験の45.8%から9%ほど上がりました。前回の午後I試験は、解答群付きの設問が多く解きやすかったといえます。今回は、前回より前の形式に戻り、解答群付き設問は少なくなりましたが、結果はよくなりました。また、午後IIで基準点(60点)以上取れた人は採点者の52.3%で、こちらは前回試験の53.4%に対して1%減少していますが、ほぼ同じ結果といえます。

出題内容を概観すると、前回まで実施された情報セキュリティスペシャリスト試験と大きく変わった点は少なく、従来どおり、午後I、午後II試験対策が合格の鍵を握っているといえます。

受験される方は、次回試験に向けて早めに対策を始めてください。

■平成29年春期 情報処理安全確保支援士試験の出題内容について

(午前I試験(高度試験の共通知識問題))

- ・高度試験に共通して出される問題30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験(AP)から選ばれています。今回の問題内容は、計算問題が2問(前回5問)と減りましたが、基礎理論の考察問題が例年どおり少し難しいことから、全体に少し難しく感じた受験者が多かったと思われます。

- ・過去問題の比率は約6割で従来どおりの比率です。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で23ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容(中分類)からは複数出題されています。現在はセキュリティ分野を重視

した出題になっており、出題数は前回と同じ4問でした。

・新傾向問題は次の4問で、前回より増えています。システム開発分野の問題で、アジャイル関連の内容は、そろそろ定番化してきているといえます。

(新傾向問題)

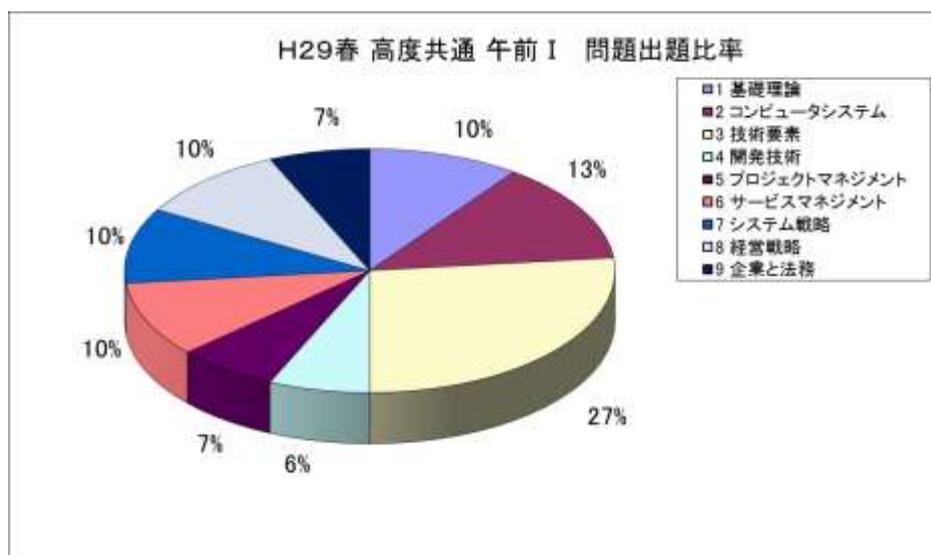
問 11 OpenFlow を使った SDN の説明

問 14 サイバーセキュリティ経営ガイドラインの説明

問 17 アジャイル開発で“イテレーション”を行う目的

問 26 浸透価格戦略の説明

平成 29 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II 試験 (専門知識問題))

午前 II 試験は基本的な問題が多く、セキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ 18 問と 2 問の合計 20 問でした (セキュリティが 1 問増え、ネットワークが 1 問減)。前回と同様に過去問が多かったため、全体の難易度は前回と同様で少し易しめだったと思われます。

新傾向問題としては、次の問題がありましたが、情報処理安全確保支援士試験の対策として、常に新しい技術について、理解しておく必要があります。

問 2 SSL/TLS のダウングレード攻撃

問 5 セッション ID の固定化攻撃の手口

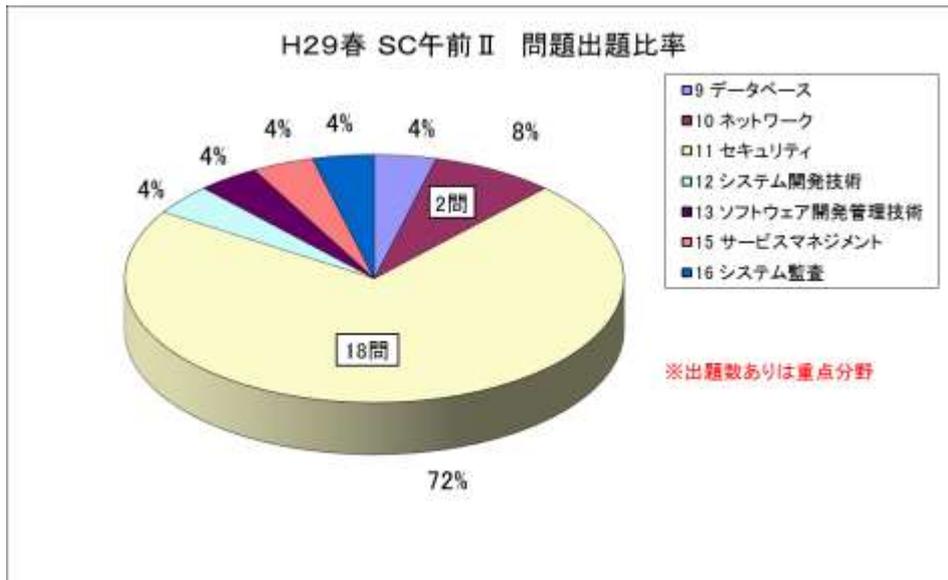
問 6 DNS 水責め攻撃の手口と目的

問 11 MITB 攻撃に有効な対策

問 13 フォールスネガティブに該当するもの

問 19 Automatic MDI/MDI-X の機能

平成 29 年春期の情報処理安全確保支援士試験 午前Ⅱ問題出題比率



(午後問題)

・午後Ⅰ問題の出題テーマと設問概要は、次のとおりです。

今回は、出題テーマが分散されたバランスの取れた出題だったといえます。また、問2にHTML関連の出題ありましたが、詳細な知識が要求される問題は例年より少なかったといえます。また、前回は解答群付きの設問が多かったのですが、今回はそれ以前に戻りました。

問1 社内発生したセキュリティインシデント (システム開発会社)

サーバへの侵入手口の調査、フィルタリングルール、盗聴した通信、PC侵入者による攻撃対策、詐称される機器、セキュリティ対策の実施、パケットの経路

問2 Webサイトのセキュリティ対策 (情報サービス事業者)

サイトの画面遷移図と仕様、脆弱性確認手順、不正動作のHTML、不正ログイン、ログイン記録、脆弱性報告、クロスサイトスクリプティング、タグに指定する属性、Cookie情報

問3 クラウドサービスの認証連携 (ソフトウェア開発会社)

クラウドサービスへの不正アクセス、暫定対策の実施、根本的な対策、SAMLを用いた認証連携、接続元制限の動作検証、SAML処理方式のシーケンス、ログイン失敗する通信

・午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。問1に比べて、問2の解答分量が少なく個々の配点が高くなっていますので、取りこぼしに注意が必要です。

問1 マルウェアの解析 (ECサイト運営会社)

インシデントの初動対応・二次対応、マルウェアのHTTP通信の解析、詳細解析環境、デバッガによる解析、パッカー、応急措置の決定と実施、感染経路の特定と対処、対応の事後評価

問2 社内システムの情報セキュリティ対策 (金属加工会社)

DMZのサーバ機能概要、内部LAN/業務LANのサーバ機能、マルウェア感染と調査、感染への対処、ウイルス対策の強化、データ交換サーバの機能、メールサーバの転送機能

(今回合格された人)

今回見事合格された方で、17 秋期試験でネットワークスペシャリスト・IT ストラテジスト・システムアーキテクト・IT サービスマネージャの試験合格を目指す方は、午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識について、なるべく早く試験対策を開始してください。まずは各試験の専門分野の基本的な問題（応用情報技術者試験の問題）から解いてみましょう。

高度系種別を受験するにあたっては、出題範囲を網羅した通信教育の『午前Ⅰ免除コース』がおすすめです。基礎から段階的に知識の積み上げを行いたい方には「書籍」「WEB 教材」「WEB テスト」「公開模試」の合格のために必要な知識を体系立てて身に付けることが可能なコース学習『スタンダードコース』がおすすめです。

その他、学習にあたっては、午前試験対策に重点をおいた『宿題メール』。午後試験対策には、受験対策のプロ講師から直接学べる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。午前Ⅰが免除になり、かつこれまでの学習で身に着けた知識が鮮明なうちに次の資格試験にチャレンジすることが、合格への近道です。次のステップアップを目指しましょう。

(今回残念ながら不合格だった人)

まず、午前Ⅰの試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が重要です。時間のない方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」の書籍を活用し出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。

今回の午前Ⅰ・Ⅱ試験の得点が 50 点～59 点だった方は、合格ラインまで“あと一歩”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

午後試験の得点が 60 点未満だった方は、まず午前Ⅱの「専門知識」の内容に関して、試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受験するなど、本番を想定した学習を行うが効果的です。

再受験のための学習にあたっては、弱点補強中心に学習を行いたい方やすでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの『プラクティスコース』、講師から直接指導を受けることでその場で自身の弱点分野を把握、克服ができる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』がおすすめです。

その他、各種豊富な学習メニューを用意しております。

情報処理安全確保支援士試験に合格するためには、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験の対策を確実に進める必要があります。アイテックの通信教育、セミナーの受講で栄冠を勝ち取ってください。

2017 年秋期試験対策の新しい書籍や研修案内については弊社のホームページからご覧ください。

<http://www.itec.co.jp>